

福島第一 建屋開口部における空气中放射性物質の核種分析結果

参考値

(データ集約：5/8)

採取場所	プロセス主建屋開口部 (除染装置室内)		造粒固化体貯蔵排気設備 (排気出口側)		3号機廃棄物処理建屋 (西側開口部)		②炉規則告示濃度限度 (Bq/cm <sup>3</sup> ) (別表第2第四欄 放射線 業務従事者の呼吸する 空气中の濃度限度)
試料採取日時刻	平成24年4月27日 14時15分～15時15分		平成24年4月27日 14時28分～14時38分		平成24年5月2日 9時02分～10時02分		
検出核種 (半減期)	①試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 (①/②)	①試料濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )	倍率 (①/②)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	
Cs-134 (約2年)	2.1E-04	0.11	7.4E-06	0.00	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	2.9E-04	0.10	1.4E-05	0.00	ND	-	3E-03

※ 試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

○.○E-○とは、○.○×10<sup>-○</sup>と同じ意味である。

その他の核種については評価中。

※ 二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

※ 本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。

検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約6E-6Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約1E-5Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約2E-5Bq/cm<sup>3</sup>。

粒子状のI-131が約5E-6Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-134が約8E-6Bq/cm<sup>3</sup>、Cs-137が約9E-6Bq/cm<sup>3</sup>。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。